



① 農作業・里山保全で若者パワーアップ 助成



「NIRE×青葉区寺家ふるさと村×現地NPO＝ひきこもりや高校中退若者のパワーアップ」

ひきこもりや高校中退などさまざまな背景のある若者たちは、1年を通じて里山での畑仕事の共同作業を通じて自信を回復し、就労や自立へ向けて大きく成長する。収穫の喜びと異文化に接することは学びと知識を養える。今後は、ひきこもり等の困難を抱える若者のほかに、ニートやフリーター、高校生、大学生などの若者、リタイヤした大人へと対象を拡大し、誰でも参加できるように事業を拡げたい。多くの若者たちがこの活動に参加することをきっかけに、他のボランティア活動にも積極的に協力し、共同作業を通じてコミュニケーションや責任感を向上させ、同世代の絆を深めあい、次世代の社会貢献活動を担う人材になって欲しい。

連絡先:教育サポートセンターNIRE

☎03-3784-0450 Mail: info@npn-nire.org

② 浜川中PTAの浜川まつり 助成

「浜川まつり、点をつなぐ横に縦に」



中学生が自主的に企画・運営にチャレンジする祭りだ。浜川地域は子供と地域がつながる機会が少ない。そこで、北浜川西町会・大井関ヶ原町会と浜川中PTA共同の防災訓練を9年間してきた実績に加え浜川中PTAの会長副会長の強力タッグが立った。地元出身が多い浜川中生徒×地元愛の強いPTA組織×校内ボランティア委員会×学校の先生のやる気と小学校の生徒への声掛け×地域センターからイベント用具×品川区の地域振興基金助成×2つの町会の協働の構図ができた。中学三年間のまつり引継ぎと、小学生からは「中学生になったら」というキャリアアップと将来的には浜川中学卒業生のサポートが期待される。小・中・高～大の地域グループ化はこども会が消失した町会にとっては新しいチカラとなる可能性がある。

連絡先:巻島淳子 Mail: a-nimu@mx3.ttcn.ne.jp

③ マチの文化祭「中延 EXPO」 助成



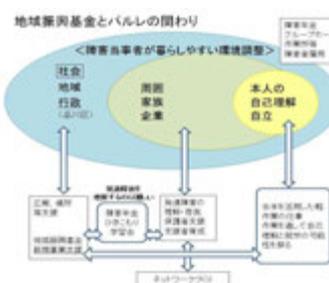
「クリエイターが中延商店街と街の活性化」マチの文化祭“中延 EXPO”を10月12日から14日まで開催した。“中延 EXPO”では、

商店街のアーケードをランウェイとして、アーティストが商店・住民と共同して作った服の「ファッションショー」を開催。中延商店街スキップロードをイメージした「オリジナルソング」も流れ、大いに盛り上がった。更には、ビルに20組を超える作家が出店した夜の手創り市「夜のバザール」、店主の持つ技や知恵を体験できる「ワークショップ」、15組のクリエイターのアトリエとなった私たちのビルの公開や演劇公演など約50のイベントで住民と商店とクリエイターの交流が生まれた。将来的には、交流や街に拠点を構えるクリエイターの増加を通じ街の活性化やエリアブランディングを目指したい。

連絡先:インストールの途中だビルオープン事務局

Mail: installbldg@gmail.com

④ 成人の発達障害者の自立支援事業 助成



成人の発達障害者の場合、本人に合わない対応が長く続き自己理解や自己の客観視が育ちにくい場合もある。周囲の理解と支援が必要である。この地域振興基金助成事業には二つのテーマがある。一つが親や働き場所であるお店・会社の理解を深めること。発達障害が何であるかとか、心身の負担を軽減できる法律に基づいた支援策の情報提供や相談で、2回の講座と講演会を開催。二つめは、成人発達障害者が活動できる場所を創り、将来的に事業としての目処をつけることだ。この新しい事業は古本を活用した軽作業で、作業を通して自己理解と就労の可能性を探る。既にこの着想を具体化させている団体と連携し、成果が具体的に出せる事業として試みる。古本の拠出先開拓、美装作業スキル、PCスキルと道具の整備など課題が明確になった。

連絡先:特定非営利活動法人パルレ☎03-5782-7650



⑤ 防災啓発で町会の絆を強化 助成



防災は災害時の備えなのだが、地域社会の住民同士のコミュニケーションを深める要素がある。そして地域の結束力の原動力になる。自分たちの地域への関心が生まれ、護ろうという意識は地域愛に向かう。間口が広がる取り組みだ。イベントは住人たちの会話の場をつくり、いろいろな意見を聞きあうことで、気持ちの共有が生まれる。近隣の町会との合同訓練は、いざという時には協力し合える体制だ。この事業は、次の7つをプロジェクトチームと町会エリアの人々で行う。

1. 啓発の講演会
2. 調査分析
3. 地域めぐりワークショップ
4. 初めての体験
5. 町内のいろいろな団体の災害の備えを統合
6. それぞれの結果を町内の全世帯に報告
7. まとめて次の課題を提案

■事業の詳細は、しながわすまいるネットで公開中。

連絡先: 西品川三ツ木会 Mail s.maz@live.jp

⑥ 国保基本健診受診啓発プロジェクト 協働



「心ひとつに協働の人育て」

国保基本健診の受診率向上の協働事業提案を受託したのが、スポーツクラブを経営している会社ルネサンス。ソーシャルマーケティングを活用したプロジェクトって何だろう？

と興味を思いつつ取材した。

（株）ルネサンスがしたのは、役所のしていることを肩代わりしたのではなく、企業のもつ組織、人を動かすマネジメントを伝授したのであった。受診率向上、区民の健康増進に向って事業のプロセスと関る人たちのコミュニケーションをデザインしたのだ。まず、区の職員に**「事業に関わる組織や団体や会社（トリム、健康づくり推進委員ほか）」**の人たちとのチームづくりをさせ、そのチームのこころをひとつにした。

この協働事業を通して、国保担当のメンバーが変わったのだと確信した。24年度の成果は25年度に引き継がれ、自ら知恵を絞った企画を推進できている。

連絡先: 国保医療年金課保健指導係

⑦ しながわ地域防災ワークショップ 協働

「まきこみ型の地域連携」

3.11 の帰宅困難者は防災や情報伝達の必要性を感じた。コーディネートには、時間と費用を要した。



品川区との協働事業「しながわ地域防災ワークショップ」を実施。6月に、「とっておきの品川店」のイベントを開催。『防災』には互いの理解が不可欠なため、このイベントを通して自分達の周りにはどんな人が働き、住み、学んでいるのかを知る機会となった。このあと、品川の地域、企業、行政では、協力してどんなことができるかを提案した冊子を制作する。これは、他の地域との情報の共有物とも捉えている。今後は、商店街と町会と企業の更なる連携へ持っていくのが役割と考えている。「芋煮会」を12月に実施。山形県山形市のほか、東京サラヤ株式会社・社会福祉法人福栄会・品川第二地域防災対策三者連絡会議・全日本芋煮会同好会が協働する。

連絡先: 株式会社しながわ街づくり計画

Mail sato@shinapro.com

⑧ 高齢者買物など支援事業 協働



「人と人がつながる福祉のネットワーク街づくり」

現行の介護保険制度では、利用者のニーズが叶わない面がある。

ケア協議会は「**高齢者等の買い物等日常生活支援事業**」と「**要介護者等に対する買物福祉車両同行支援事業**」が支援を必要とされている高齢者等のクオリティ・オブ・ライフの維持・充実を実現できるように品川区の福祉施策と連携を密にし、協働事業を通して高齢者・障害者を対象に、健全で適正、より質の高い福祉サービスを行っている。また、居宅介護事業者とともに法令遵守、事業者倫理の保持につとめ、円滑な介護事業運営を行えるよう、ヘルパーの人材養成、研修、人材紹介、職業能力の開発と雇用機会の拡充を支援している。高齢者等が安心して生活を維持・継続するための支援メニューは、**ケア協議会と利用者**と**ヘルパー**の三者の関係をより充実していきそうである。

連絡先: 特定非営利活動法人 品川ケア協議会

事務局: ☎03-3471-4830 (直通) otani@ohsaki-hhs.co.jp



「協働ネットワークしながわ」施設見学



「立正大学×協働ネットワークしながわ」

—立正大学生とときめきディスカッション—

10月30日に、立正大学文学部社会学科が開設する地域連携支援室を訪問した。ご担当の野呂先生の案内で学内を見学後、「コミュニティサービスラーニング」の講義に出席した。コミュニティサービスラーニングとは“地域での活動に参加することで学んでいく経験教育”です。メンバーも講義に参加し、地域で活動する30人の学生とディスカッションを行った。

慣れないシチュエーションに皆最初は戸惑いもあったが、地域や社会に貢献するという共通の話題について話し合ううちに次第に打ち解けた雰囲気になり、和やかで真剣なディスカッションとなった。その中で双方が新しい気づきや発見を得られ、お互いの敷居が高くないことや、大学や学生たちに「地域社会と関わりたい」というニーズがあることもわかった。今後の連携・協働に期待できる新しい一歩となる場になった。
※参加者の声

・学生さんたちに地域との関わり方についていくつもの気づきを与えてもらいました。

・地域とは役所が作り上げるものだと思っていたが、行動を起こせば自分たちで地域づくりができるのだと気づくことができた。

(他のアンケート結果はWEBサイト:協働ネットワークしながわ>しなもん2号「こぼれた話」で公開中)



協働ネットワークしながわ入会方法

「協働ネットワークしながわ」は、どなたでも入れる会員制。施設見学会、学習会、情報交換会などを行っています。社会貢献活動をなさっている方、協働に関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

窓口担当:地域活動課 協働・ふれあいサポート係
〒140-8715 品川区広町 2-1-36 ☎03-5742-6693
Mail: chikikat@city.shinagawa.tokyo.jp

イベント・ボランティア募集・勉強会のお知らせ

※今号登場の団体・会社の関連イベント

◆農業体験ボランティア 日毎週木曜日・参加費500円・場所横浜市寺町ふるさと村・問合せ教育財団-トセタ-NIRE ☎03-3784-0450 info@nire-npo.org

◆防災ワークショップ〜芋煮会 日平成25年12月14日(土)・場所品川シーサイド、イオン前広場
問合せ品川街づくり計画 sato@shinapro.com

◆マラソンパトロール 日毎週木曜日。場所品川塾交流館 問合せ品川街づくり計画 ☎03-6404-6388

◆中延トークイベント 日平成26年1月22日(水)
会場インストールの途中だビル401号*サポートスタッフ募集中 問合せ installbldg@gmail.com

◆協働ネットワークしながわ望年交流会 日平成25年12月25日(水)・場所中小企業センター中会議室・参加費1500円 問合せ協働・ふれあいサポート係

◆品川区消費生活展 日平成26年2月15日(土)16日(日)・場所きゅりあん7F イベント会場
問合せ協働・ふれあいサポート係 ☎03-5742-6693

◆社会貢献活動しながわ2014 日平成26年2月22日(土)・場所きゅりあん7F イベント会場
問合せ協働・ふれあいサポート係 ☎03-5742-6693

◆勉強会「助成金!私はどうしてGETできた話」 日平成26年2月5日(水)、12日(水)13時~15時30分

2月5日	伊藤チャイム 宮木丸美	教育サポートC NIRE 中塚史行	パルレ 荒尾俊樹
2月12日	おばちゃんち 幾島博子	三ツ木町会 松田誠一	未定

場所こみゆにていぶらざ八潮2階協働推進室・活動スペース・参加費各日500円・問合せ協働・ふれあいサポート係 ☎03-5742-6693 (発表団体は変更もあります)

◆「品川区地域振興基金助成金にチャレンジ」あなたの団体の事業企画を仕上げてみよう!!

日平成26年3月5日(水)と19日(水)(2日間)午後
場所中小企業センター会議室・参加費1500円・問合せ協働・ふれあいサポート係 ☎03-5742-6693

※掲載記事内容をもっと知りたい場合は・・・
しながわすまいるネット>協働ネットワークしながわ>しなもん2号「こぼれた話」をご覧ください。

編集責任者:松田誠一 取材スタッフ:志村 薫
Mail: 0909mazda@gmail.com
担当取材記事:表紙②④⑥(松田) ①③⑤⑦⑧(志村)